備前市事務事業評価シート

（平成21年度事業）

事業の概要					
事業開始年度		昭和４６年４月		根拠法令・例規等	備前市栄養委員会規則
総合計画	大項目	基本目標	02 健康でやさしさあふれるまちづくり	問合先	担当課（室） 保健課
	中項目	基本施策	02 健やかで生き生きしたまちづくり		職・氏名 健康係長・白髭由美子
	小項目	施策	06 健康づくり		電話 ６４－１８２０
事務事業名			02 栄養委員会事業	このシート作成に要した時間	4.0 時間

事業の目的	
対象（誰・何に対して）	栄養委員
目的（何のために）	市民の健康づくりをすすめるための「健康づくり（栄養改善）ボランティア」として育成する。
事業の意図する成果（どのような状態にしたいのか）	委員が自らの健康課題に気づき、地域の健康づくりリーダーとして栄養改善事業、地域づくりに取り組むことで、市民の健康づくり意識の向上を図る。

事業の目的、対象、内容を考えながら妥当性の評価を行って下さい

事業の実績

目的を達成するため実施した事業

細事業名	事業の説明	優先度
栄養委員会事業	健康づくりを推進する「健康づくり（栄養改善）ボランティア」として、市長の委嘱を受けた栄養委員を育成し、市民の健康増進を図る。 伝達講習会（親子料理教室）、減塩普及事業 他組織（教育機関、保育園、地域の団体等）と連携した食育事業	◎

事業費等		単位	平成19年度実績		平成20年度実績		平成21年度実績	
決算額 事業費	直接事業費	千円		2,114		1,970		2,059
	必要人員 人件費		1.57人	11,043	1.36人	9,453	1.55人	11,127
	事業費計			13,157		11,423		13,186
財源	国県支出金	千円						
	受益者負担							
	繰入金							
	市債							
	その他（ ）							
	一般財源			13,157		11,423		13,186
受益者負担比率		%		－		－		－

結果指標名		単位	平成19年度実績	平成20年度実績	平成21年度実績
結果指標	委員会、研修会参加人数	説明	栄養委員会研修会参加者数		
	結果指標量	事業	2,043	2,002	1,950
	対前年比	%	－	98.0%	97.4%
	活動コスト	円	13,157,000	11,423,000	13,186,000
	単位当たりコスト		6,440	5,706	6,762

事業費や単位当たりコストに留意しながら効率性の評価を行って下さい

事業の成果

成果指標名	年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度目標値
市総会,地区総会、栄養委員研修会（３s）の平均参加率	目標値（A）	83	85	85	85
	実績値（B）	81	88	83	到達目標値
	達成率（B/A）	97.59%	103.53%	97.65%	85

成果指標設定の考え方・式や説明

市総会、地区総会、栄養委員研修会（３s）の参加平均人数/栄養委員会委員数（208人）＊１００
H19年　（843÷5）/208＊100=81　　H20年　（915÷5)/208＊100=88　　H21年　(867÷5)/208＊100=83

事務事業の評価

妥当性の評価

- 市の関与の妥当性
  - ☐ 市が実施するよう法令で義務づけられている
  - ☑ 法令で義務づけられてないが、実施しなければ大半の市民の日常生活に支障をきたす
  - ☐ 現在市が実施しているが、実施しなくても市民の日常生活に支障をきたさない
  - ☐ 事業の内容が一部の受益者に偏っている
- 必要性
  - ☐ 対象者は限定的であるが社会的弱者等を対象としている
  - ☑ 現在の市を取り巻く環境からも目的・意図する成果は妥当である
  - ☐ 事業開始当初の目的から変化してきている
  - ☐ 事業開始当初の目的は、ほぼ達成されている
  - ☑ 厳しい財政状況であるが、実施する必要がある
- 市民ニーズ
  - ☑ 市民・団体等から要望・要請が強い

妥当性評価 <A～E>: **B**

効率性の評価

- コスト
  - ☐ 単位当たりコストは前年度と比較して改善している
  - ☐ 実施方法（派遣・委託含）を見直すことでコストを下げる余地がある
  - ☐ 事務の電子化や事務改善によりコストを下げる余地がある
  - ☑ コスト削減の努力はしているが、下がる余地は小さい
- 手段
  - ☐ 受益者負担率は適正である
  - ☐ 受益者負担率を見直す余地がある
  - ☐ サービスを維持するためこれ以外、他に手段が見当たらない
  - ☐ 現在の手段は過剰なサービスのため、改善の余地がある
  - ☑ 最適な手段を求めて職場内で改善・研修に努めている

効率性評価 <A～E>: **B**

有効性の評価

- 目的達成度
  - ☐ 成果指標の設定は適切である
  - ☑ 成果指標の到達目標値は達成できそうである
  - ☐ 成果指標達成率は前年度と比較して向上している
  - ☐ 成果指標達成率は80%未満となっている
  - ☐ 現在の事業を継続しても成果指標の向上は期待できない
- 市民参画度
  - ☐ 法定事務 ・ 内部管理事務　であり成果は求めにくい
  - ☑ 事業について積極的にHPや広報等で情報提供している
  - ☑ 事業にはNPO、ボランティア団体等が参画している

有効性評価 <A～E>: **B**

事業の目的やその数値目標である成果指標に留意しながら有効性の評価を行って下さい

進行年度（H22年度）の改革改善内容

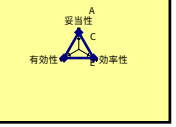
状況	拡充	現状継続	見直し	縮小	整理統合	休止	廃止・完了
		○					

説明：栄養委員研修会を実施する意義、目的、要領等を十分説明し出席を促す。また、委員会等の場において研修会に参加した委員の意見、要望等を引き出す。

総合評価

栄養委員は地区での伝達講習が委員活動の主たるものであり、中央での委員研修に参加して伝達する知識や技術を研修後、地区での伝達講習会を実施している。学んだ知識や技術を活用し地域の住民に伝達することで自分自身の改善点に気づき、健康づくりの必要性を知る。このことは、地域に栄養改善への意識を高める基盤となる。

評価区分 <A～E>: **B**



平成23年度の方向性 及び 取組目標

方向性	拡充	現状継続	見直し	縮小	整理統合	休止	廃止・完了
		○					

取組目標：出席しやすい総会、委員研修会や地区委員会を開催するようにつとめる。